

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 3月 13日

【評価実施概要】

事業所番号	2070201385		
法人名	社会福祉法人 陽気会		
事業所名	グループホーム稲穂		
所在地	長野県松本市梓川梓2578-3 (電話) 0263-78-2945		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成20年3月13日	評価確定日	平成20年4月14日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成17年4月に社会福祉法人陽気会により開設された。ホームの周りは広い畑・田んぼに囲まれているが新しい住宅も建ち並んでいる。訪問した時は周りの山々に春霞がかかり山の姿がぼんやりと見えていたが帰宅時には山々がくっきりと見え信州ならではの風景が現れた。若い管理者の下、職員のチームワークは良く、入居者の毎日の生活が穏やかなものであると思われる場面が多く見受けられた。法人のケアハウスが道路を隔てた隣接地にあり、お互いの長所を活かしながらのバックアップ体制が築かれている。入居者が主体に活動できる場面作りや四季折々の行事など、日々の生活の中に取り入れることにより、記憶にあるもの、忘れかけていくものなど視覚と体感を通じて感じてもらえる取り組みがされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の要改善事項のうち、入居者及び保証人の権利・義務については契約書に明記され説明されている。ケアプランの見直しについても、状態変化がない限り、現在、三ヶ月に1回行っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	多数の職員参加により行われたと思われるが、工夫をしていただき、全職員による自己評価をされることが望まれる。職員の会議などで共有する仕組みは確実に出来ているが、一人ひとりの自己評価はまた違った意見なども期待が出来、活性化につながると思う。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6）
	運営推進会議は着実に前へ進められていると思う。行事内容の紹介等、ホームから一方的な報告だけでなく、徐々に委員の方々からのホームへの意見なども出てくるようになり、双方向性のある会議へと進展している。委員の方には今後のホーム活動などに理解を示していただいている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8）
	家族よりの意見には職員一同で感謝の気持ちをもって内容を検討し、反省・改善をしている。事務所の大きなコルクボードには「ひやりハット」報告書が沢山貼られている。比較的小さな事でも記入され、すべての職員が確認した印があった。大事故につながるかもしれないことに目を向けている姿勢が入居者の安全・安心につながっている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	日常生活でも、行事的なことでも、地域との交流を行っている。地元の高校の「職場体験」の生徒受け入れを毎年行い、グループホームの理解を広げるよう地域に発信している。折にふれ、ピアノ演奏など色々な方面のボランティアの受け入れもしており、入居者の生活に張り合いと楽しみなどをもたらしている。

【情報提供票より】（平成20年2月10日事業所記入）

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 3人, 非常勤 7人, 常勤換算 7.2人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 1日500円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(250,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要(平成20年2月10日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2	要介護2	3
要介護3	2	要介護4	2
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 87 歳	最低 76 歳	最高 98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・ 梓川診療所 ・ 波田総合病院 ・ 昭和歯科医院 ・ 松本協立病院
---------	------------------------------------

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	外部への諸関係には法人事務局が窓口となっており、法人理念を基本に掲げている。職員は法人理念を十分理解した上で、グループホームとしての「私たちが目指すもの」という目標を更に掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「法人理念」や「私たちが目指すもの」を月1回行われる定例会で職員に伝え、確認している。事務所内には「私たちが目指すもの」等を掲示しており、常に意識して支援に当たっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	生協の地域の拠点として隣接するケアハウスの敷地が使われているので、日常生活では常に地域の方々との交流がある。行事的なものでは法人の10周年記念式典に地域住民と一緒に参加したり、地元地域の文化祭に作品の展示をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員の中には初めての自己評価の方もいたり、複数回経験した方もいるが、他の職員の意見が書かれたものを見るということに留まった職員もいた。自己評価することで、自信と改善につながったと伺った。	○	全員が参加することに意義があると思われるので、自己評価の仕方・時間のとり方などを工夫し、全職員が参加し何らかの気づきが得られるような体制づくりが望まれる。

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の割合で行われている。グループホームの紹介、事業計画などの報告をしているが、最近では委員の方々から議題や内容、場所などの提案事項も多く出るようになり、運営推進会議が回を重ねる毎にホームへの理解へと着実につながっている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所支所福祉課主催の「高齢者連絡会議」に参加し、近隣の情報を常に頂いている。予備室が1部屋あり「短期利用共同生活介護」の申請も検討している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2～3ヶ月に一回の割合で「いなほだより」を発行している。ホームでの出来事、職員の異動などが盛り込まれた新聞を家族のもとへ送っている。個人からの預かり金（こずかい）は、こずかい帳を作成し家族の方が訪問された時に見ていただいている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に「目安箱」が設置されている。以前、市経由包括支援センターへホームへの要望と思われるものがあつた時、文書にして職員に伝え、改善策について話し合いをした。結果については市へ報告し、以後、ご家族との話し合いを更に大切にしよう配慮している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	「いなほだより」で異動等については家族へ連絡している。新しい職員が配置される時は通常勤務体制に1週間位1名多く配置し、スムーズな引き継ぎとともに入居者の混乱を防ぐように配慮している。		

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置のやり繰りをして研修に職員を送り出している。外部研修参加者は「職員研修記録」を必ず作成し、定例会で発表している。レポートを書いたり、知識・技能を共有することで内部研修にもつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回の高齢者連絡会議に参加している。今後グループホームのネットワークにも参加して行きたいという意向である。	○	他のホームを見ることで自分たちのホームでの生活を振り返る機会が出来る。同じ立場の職員同士の話し合いも出来、サービスの質の向上・職員の多方面に置いての悩みなどの解消に役立つものと思われる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ケアマネージャーや市町村よりの依頼があった時は必ず体験入居をしていただいている。1週間ぐらい入居者と生活を共にして様子をお互いに見ることが出来、人間関係を築きながら安心感を持っていただけるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の姿勢の中に入居者を一人の先輩として接する気持ちが窺える。昔からの料理、箸の持ち方、洗濯物の干し方などを教えられたり、注意されたりする。入居者が職員の健康を気にする場面もある。		

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人的に問いかけても自分の気持ちを伝えられない方も、大勢の中で話をしているときには希望などを話すことがあるので、入居者の会話を注意して聞いて希望などが把握できるように努力している。入居者の話を否定することなく受け止めるように心がけている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意見を聞き、定例会で職員が意見を出し合い作成している。内容も生活に密着した言葉で書かれて分かりやすく出来ている。ファイルも入居者のプランがすぐに見られるような工夫がされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に3ヶ月に1回見直しを行っている。心身の状況が変化した時は、その都度行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地元地域の理美容院利用の支援をしている。病院での受診等の付き添いを行っている。		

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの方が協力医の利用を希望している。協力医による健康診断を行っている。おおよそ月に1回それぞれの入居者に対し往診してくれるので、毎週医師がホームにきてくれている状況である。入居者の体調の変化にも的確な医師の判断があるので入居者も家族も安心できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームでの看取りが1名行われ、病院での看取りも1名と、入居者の方を最後まで看取りした経験がある。ホームとしては終末期まで家族との話し合いをもとに、その都度対処していく方針である。今後入居者のことを考え、職員全体で勉強し、意思統一をする必要性から管理者は資料集めなどに着手している。	○	資料集めの作業継続と職員全員でのマニュアル作成もお願いしたい。運営推進会議の議題としても「重度化について」話し合いをし、関係者全員の協力が得られるよう取り組んでいただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	契約書にもプライバシー保護のことが書かれている。玄関にも文書が掲示されている。日常生活の中では、職員は入居者を年長者として尊敬し接していた。言葉づかいも穏やかに、耳の遠い方には耳元で話しかけていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしての一日の時間割が出来ているが、入居者の希望にそって急遽お弁当を作っ出かける事もたびたびある。近隣の大手スーパーに出かけ、買い物も楽しんでいる。		

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒にコロッケ、餃子など作ることもある。同じ敷地内の家庭菜園で殆どの野菜が取れるので、畑を耕すことは出来なくても収穫に参加し、料理に使っている。レストランや回転寿司での外食も取り入れ、変化を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	グループホームでは珍しい、車椅子対応のミスト浴用器具が開設当初より設置されており、浴槽に入れなくても入浴が楽しめるようになっている。入居者の不安をなくすため、浴室入口の扉も取り外し、車椅子でも対応が出来るようなスペースになっている。入浴時間帯には職員の配置を1名多くし、入居者にゆったりと入浴していただけるよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、絵手紙、ゲートボールなど参加する機会が多い。ケアハウスの居住者がホームの広い畑を耕し作物を作る手伝いをしてきている。収穫時期になると入居者が収穫する。四季折々の花見等が年中行事に組み込まれている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	暖かくなると散歩を楽しんでいる。毎週の生協の品物の引き取りなど、普通の生活の中の出来る範囲で行っている。道を1つ隔てた所にゴミ集積場があるので散歩がてら毎日のゴミ出しも入居者をお願いしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。外出傾向や帰宅願望のある方には時間をかけて話をゆっくりと聞きながら、他の事に気持ちが向くように努めている。		

グループホーム稲穂

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と一緒に防災訓練を行っている。防災マニュアルもあり、隣接のケアハウスも含め地域との協定はできている。救命救急の研修は引き続き多くの職員に参加してもらおう意向である。災害時に備えての備蓄はケアハウスに準備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケアハウスの栄養士に献立を作成してもらい、それをもとにアレンジして料理している。個別表には、食事の量、排泄などの記録が細かく記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいろビングには季節の行事のお雛様が飾られていた。玄関先にも折り紙で作られた雛飾りが置かれていた。入居者の手作りの絵手紙もリビングのボードに展示されていた。職員の工夫で室内でのゲートボール大会が行われ、結果が張り出されており、微笑ましく感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	こじんまりと清潔に整えられた居室にはタンスなど馴染みのものが持ち込まれ、入居者の方の安定した生活が営まれていることが窺えた。各居室からは周りの山や畑などが一望でき、心が解放されるような感じがした。床暖房なので適度な暖かさになっている。		

※  は、重点項目。